

平成25年度  
武蔵村山市協働事業提案制度  
実施事業評価報告書



平成26年6月

武蔵村山市



# はじめに

市民と行政との協働を一層進展させることを目的として、武蔵村山市では、平成17年度に『武蔵村山市市民活動団体との協働に関する指針』を策定し、平成18年度には協働事業を進めるための手引として『武蔵村山市市民協働推進マニュアルーパートナーシップのまちづくりをめざしてー』を策定しました。

平成20年度には、指針に掲げる市民協働の基本的な考え方を具体的に実現するための第一歩として、「武蔵村山市市民協働まちづくり研究会」を設置し、その成果を『武蔵村山市市民協働まちづくり研究会報告書』にまとめ、研究会で抽出した諸課題を具体的に検討するために平成21年度に「武蔵村山市市民協働推進会議」が設置されました。

協働事業提案制度は、平成22年3月に武蔵村山市市民協働推進会議から報告を受け、武蔵村山市で事業の実施に向けた検討を行い、平成23年度に創設された制度です。この制度により、平成23年度に3団体、平成24年度に5団体が協働事業として採択され、翌年度に事業が実施されています。本制度による事業の成果を今後の協働事業に生かし、より質を高めていくとともに、本制度の信頼性・透明性の向上を図ることを目的として、平成25年度武蔵村山市協働事業提案制度実施事業報告会を開催しました。

地域における様々な課題の中には、市民や地域で活動されている団体だからこそ見えてくるものもあると同時に、行政だけでは対応が困難な場合もあります。市政への市民参加を促進し、市民による地域の課題、社会的課題の解決につなげ、暮らしやすい武蔵村山市の実現のために、この「協働事業提案制度」は、引き続き重要な役割を果たしていくものと考えます。

結びに、本事業の評価に当たり、貴重な御意見をいただきました「武蔵村山市市民協働推進会議」委員の皆様方に心より感謝申し上げます。

平成26年6月

武蔵村山市長 藤野 勝

# 目 次

はじめに

1	協働事業提案制度の概要	.....	1
2	募集から報告会までの経過	.....	1
3	事業評価	.....	2
4	平成25年度実施事業の評価結果	.....	3
5	平成25年度実施事業内容	.....	6
(1)	子育てサポートプロジェクト いつひよファミリー～with 石田倫依	.....	7
(2)	ちびっ子名人育成プロジェクト 特定非営利活動法人 むさしむらやま子ども劇場	.....	14
(3)	みんなで挑戦 未来の自分に自信と誇りを 公益社団法人 立川青年会議所	.....	23
(4)	小学生への花育と豊かな環境作り グラシオス プラント パートナー	.....	31
(5)	小学生の為の朗読体験教室 朗読グループ いるか会	.....	37
	資料編	.....	45
資料1	武蔵村山市市民協働推進会議要綱		
資料2	武蔵村山市市民協働推進会議委員名簿		
資料3	武蔵村山市協働事業提案制度における提案事業審査要領		
資料4	武蔵村山市協働事業提案制度実施要綱		
資料5	平成24年度武蔵村山市協働事業提案制度実施事業報告会実施要領		



# 1 協働事業提案制度の概要

平成23年度に創設された協働事業提案制度は、武蔵村山市内を主な活動範囲とする特定非営利活動法人、ボランティア団体、自治会その他の営利を目的とせず社会貢献活動を行う団体（以下「市民活動団体」という。）の専門性や柔軟性等をいかした公益性の高い事業の提案を募集することにより、提案した団体が市と協働して事業を実施することで、市政への市民参加を促進するとともに、市民による地域の課題、社会的課題等の解決につなげ、暮らしやすい地域社会の形成を目的とする制度です。

本制度は、将来の協働型事業の実施を目指す市民活動団体の育成を目的とした「団体育成型事業部門」と、事業の目的を市と共有するとともに、市との役割分担、経費負担等について、企画立案、事業の実施及び事業終了後の評価まで一貫して市と協働で行う「協働型事業部門」の2種類の事業について募集を行いました。

「団体育成型事業部門」は、1事業当たり対象となる経費の30万円を限度として、「協働型事業部門」は、1事業当たり対象となる経費の100万円を限度として補助金が交付されます。

## 2 募集から報告会までの経過

平成25年度武蔵村山市協働事業提案制度実施事業の流れは以下のとおりです。

### 【平成24年度】 ●武蔵村山市協働事業提案制度の周知

- ・市ホームページ及び市報に掲載、募集チラシの配布等



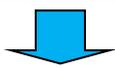
### ●提案の募集

- ・募集期間 平成24年7月17日(火)から同年8月17日(金)まで
- ・提案件数 5件



### ●市民協働推進会議の開催

- ・提案事業の採択の適否を審査するため、市民協働推進会議を開催
- |       |              |                      |
|-------|--------------|----------------------|
| 第1回   | 書類選考         | 平成24年9月3日(月)         |
| 第2～3回 | 二次審査         | 平成24年10月3日(水)、11日(木) |
| 第4回   | 最終選考(5事業を採択) | 平成24年10月29日(月)       |



### 【平成25年度】 ●協働事業の実施



### 【平成26年度】 ●実施事業報告会 平成26年4月17日(木)、24日(木)

### 3 事業評価

平成26年度の実施事業報告会は、武蔵村山市協働事業提案制度実施事業報告会実施要領（以下「実施要領」という。）に基づき行われました。

実施団体は、武蔵村山市協働事業提案制度実施事業自己評価票に基づき自己評価を行い、これに基づき事業報告を行いました。報告後、出席者（武蔵村山市市民協働推進会議（以下「推進会議」という。）委員及び一般参加者）との質疑応答を行い、必要に応じて推進会議委員から助言を行いました。

全団体報告終了後、推進会議において以下の評価項目により事業評価を行いました。

#### 【評価項目】

- |               |  |
|---------------|--|
| (1) 事業目的      | 事業の目的はどこまで達成できたか。  |
| (2) 事業内容      | 事業スケジュールに問題はなかったか。<br>課題に対する事業の効果はどうだったか。<br>設定した事業の効果は得られたか。<br>継続の可能性は高まったか。<br>効率的なコストで事業運営をしていたか。  |
| (3) 協働という事業形態 | 事業の実施方法や手法はどうだったか。<br>協働事業の役割分担はどうだったか。<br>事業の実施体制はどうだったか。<br>協働事業としての意義と必要性はどうか。<br>単独で実施するより効率的・効果的に実施できたか。<br>市民活動団体等の持つ特性を發揮できたか。<br>事業に最もふさわしい協働形態が選択されたか。<br>協働相手は妥当だったか。<br>事前の話合いを十分に行い、役割は明確になっていたか。<br>事業の進捗状況などについて情報交換等意思疎通は十分だったか。<br>課題の発生に、双方の立場から適切に対応したか。<br>今後の課題と改善策を互いに話し合っていたか。<br>協働の役割分担（対等な立場での協力関係）は適切だったか。 |
| (4) 市民ニーズの充足  | 市民のニーズは適切に把握できていたか。<br>市民のニーズに応えられたか。  |
| (5) 実施能力      | 事業を実施して、団体の実施能力は向上したか。   |
| (6) その他       | 新たに気付いた課題は何か。<br>事業実施を通して学んだことは何か。   |

## 4 平成25年度実施事業の評価結果

### (1) 個別事業ごとの評価

平成25年度実施事業の事業評価は、以下のとおりです。

実施事業の内容については、「5 平成25年度実施事業内容」を参照してください。

事業番号	事業部門	提案事業名	事業評価による得点					合計
			事業目的	事業内容	事業形態	市民ニーズ	実施能力	
1	団体育成	子育てサポートプロジェクト	41点 (45点)	204点 (225点)	238点 (270点)	78点 (90点)	42点 (45点)	603点 (675点)
		いつひよファミリー～with 石田倫依	【91.1%】	【90.7%】	【88.1%】	【86.7%】	【93.3%】	【89.3%】
主な意見等								
<p>子どもやその家庭を取り巻く環境は大きく変化しており、子育て環境の整備が課題となっている社会状況において、このような取組を実施することは非常に評価できる。事業内容についても、全体的に良い印象を受けた。子育てに関する事業を幅広く展開し、経費を最小限に抑えて効率的な運営を行うことができている、団体の事業推進に対する意気込みが感じられた。この事業は団体育成型であるため、市側との連携・協働は義務付けられていないものの、市担当課と連携した事業実施を心掛けていた。今後は、協働に向けてより円滑な連絡や情報交換を行っていくことが望まれる。協働事業の意義と目的を理解し、協働型の事業として発展させるとともに、団体の更なる成長を期待する。</p>								
2	協働型	ちびっ子名人育成プロジェクト	40点 (45点)	189点 (225点)	477点 (540点)	77点 (90点)	41点 (45点)	824点 (945点)
		特定非営利活動法人むさしむらやま子ども劇場	【88.9%】	【84.0%】	【88.3%】	【85.6%】	【91.1%】	【87.2%】
主な意見等								
<p>団体と市担当課の役割分担が明確で連携体制が確立されており、協働事業としての事業形態がしっかりしていた。2年目という事で、団体、市及び放課後子ども教室安全管理員の関係性が円滑になり、市の事業である放課後子ども教室の中で本事業を実施することにより、異世代交流が図られたことは評価できる。その一方で、遊びの技術力向上だけではなく、本来の目的である遊びを通じた子どもの成長を検証するため、コミュニケーション能力の向上や世代間交流の促進などの効果がわかるよう、アンケート調査などを実施していくことが必要と言える。また、前年度実施校への再訪問など、各学校での事業継続に向けた取組が望まれる。協働事業提案制度の対象が3年間であることを見据え、4年目以降の継続について、資金の確保も含め、事業計画を構築することが課題である。</p>								

事業番号	事業部門	提案事業名	事業評価による得点					合計
		提案団体名	事業目的	事業内容	事業形態	市民ニーズ	実施能力	
3	協働型	みんなで挑戦 未来の自分に自信と誇りを	30点 (45点)	144点 (225点)	376点 (540点)	59点 (90点)	29点 (45点)	638点 (945点)
		公益社団法人立川青年会議所	【66.7%】	【64.0%】	【69.6%】	【65.6%】	【64.4%】	【67.5%】
主な意見等								
<p>「ギネスに挑戦」という大きな目標に対し、達成度が見えなかった。一年でギネス記録に挑戦するという計画自体に無理があり、中長期的な視点に立って段階的にレベルアップを図り、最終的にギネス記録に挑戦すべきだったと言える。全校実施を目指したが、結果的に挑戦できたのは3校のみであったことも残念である。事後アンケートにより、子どもたちが楽しんだことはいかたがえるが、大切なのは本事業を実施したことによる子どもの成長と持続的なまちづくりへの寄与であり、その効果が見えない。ギネス記録という目標に挑戦することで子どもに夢を与えることはできるが、ギネスに係る経費が膨大であり、費用対効果が低い。また、毎年交代して就任するリーダーが思っていた事業を単発的に行うことの繰り返しで、継続性に欠けていることから、協働事業の意義を理解し、団体として将来を見据えた事業計画をしっかりと立て、事業の目的と継続する姿勢を明確にするべきである。</p>								
4	団体育成	小学生への花育と豊かな環境作り	42点 (50点)	216点 (250点)	260点 (300点)	82点 (100点)	47点 (50点)	647点 (750点)
		グラシオス プラントパートナー	【84.0%】	【86.4%】	【86.7%】	【82.0%】	【94.0%】	【86.3%】
主な意見等								
<p>前年度に引き続き団体育成型での採択であったが、前年度の反省を踏まえ、花の咲く時期や期間等を考慮しながら事業を実施するなど、成長が感じられた。また、子どもたちに花を持ち帰らせることで家庭を巻き込むなど、事業内容が充実したことは評価できる。その一方で、今後の展望について具体性がないので、事業継続に向けて、将来を見据えた事業計画を立てる必要がある。また、今後協働事業として継続していくためには、教育委員会と連携し、前年度実施校への再訪問や、地域・家庭と連携した事業実施などが必要と言える。目的に沿った事業を展開することで、より事業内容を充実させるとともに、教育委員会と密接に連携を取り、協働事業として成長し、事業が長く継続することを期待する。</p>								

事業番号	事業部門	提案事業名	事業評価による得点					合計
			得点 a (満点 b) 【得点率 a/b×100】					
		提案団体名	事業目的	事業内容	事業形態	市民ニーズ	実施能力	
5	協働型	小学生の為の朗読体験教室	45点 (50点)	181点 (250点)	503点 (600点)	82点 (100点)	36点 (50点)	847点 (1050点)
		朗読グループ いるか会	【90.0%】	【72.4%】	【83.8%】	【82.0%】	【72.0%】	【80.7%】
	主な意見等							
<p>ゲームが普及する現代社会において、子どもたちに朗読の楽しさを教え、それが伝わったことは非常に評価できる。子ども達の感想文を見ると、とても好評であり、事業の目的を果たしている。本事業は、一人の講師に頼って実施したため、講師の都合により事業を継続できないのは非常に残念である。団体のメンバー自身が自らの「朗読力」に自信を持って各学校を訪問して朗読体験事業を実施するなど、講師に依存することなく主体的に事業を進めていくべきと言える。教育委員会との連携も取れており、協働事業として継続していくことができるよう、団体が活動を活発に行い、先を見据えて事業を展開することを望む。</p>								

## (2) 実施事業全体の評価

協働事業提案制度を創設してから3年が経過し、2回目の実施事業報告会となったが、前年度から継続している事業については、1回目の反省を踏まえ、内容を充実させて事業を行うなど、課題解決に向けた取組が見えた。また、協働事業を理解し、市担当課と連携を密接に取るよう努力している印象を受けた。一方で、事業開始から3年目を迎えるに当たり、本制度の補助が3年間であることを考慮し、新たな資金の確保や事業計画の見直しなど、事業の継続を前提とした具体的な計画を立てる必要がある。

平成25年度に初めて事業を実施した団体については、市と協働で事業を実施することに戸惑いも感じられたことと思う。協働事業を理解し、団体自体が事業を継続する体力をつけ、目標をもって継続的に事業を実施していただきたい。

今回実施した事業の中には、継続性が見られないものもあり、非常に残念であった。協働事業の意義を理解し、将来を見据え、目的を明確にした上で事業の継続を前提とした事業計画を立てていただきたい。市と団体の連携を更に推進し、本制度の目的を果たせるよう事業が発展することを望む。

## 5 平成25年度実施事業内容

提案団体から提出された協働事業結果報告書は、次のとおりです。

- |     |                             |         |
|-----|-----------------------------|---------|
| (1) | 子育てサポートプロジェクト               | ……………7  |
|     | 提案団体：いつひよファミリー～with 石田倫依    |         |
| (2) | ちびっ子名人育成プロジェクト              | ……………14 |
|     | 提案団体：特定非営利活動法人 むさしむらやま子ども劇場 |         |
| (3) | みんなで挑戦 未来の自分に自信と誇りを……       | 23      |
|     | 提案団体：公益社団法人 立川青年会議所         |         |
| (4) | 小学生への花育と豊かな環境作り             | ……………31 |
|     | 提案団体：グラシオス プラント パートナー       |         |
| (5) | 小学生の為の朗読体験教室                | ……………37 |
|     | 提案団体：朗読グループ いるか会            |         |



<p>具体的な活動状況</p>	<p>毎月行われているいつひよファミリーへの会では、親子の手遊び、ふれあい遊びを通じて、親子のスキンシップ・親同士の交流が出来る場を設けている。</p> <p>ベビーとママのヨガ&amp;リズム体操では、親子のアタッチメント形成を促しながら、育児ストレス解消の為、母子分離を行わない体操等を行っている。</p> <p>親子コミュニティ広場では、生後2ヶ月からの親子での制作、体操、知育遊び、季節行事やふれあい等を通して、子との関わり方や遊び方、母親同士の交流の場、育児・悩み相談等を受けている。相談案件により、子ども家庭支援センターとの連携有。</p> <p>その他、保育園出張／青空広場／児童館出張／武蔵村山市社会福祉協議会開催福祉祭り／チョコキチョコママカフェ／クリスマス会等イベント／障害児者施設訪問等を行い、より良い子育て支援環境を整えていくために、世代と障がい等を超えた架け橋となる活動を行ってきました。</p>
<p>事業の成果</p> <p>※事業実施により課題がどのように解決したかを具体的に記入してください。</p>	<p>様々に展開している子育て支援事業で、育児相談を受け、様々な不安等を緩和する事が出来た。また、案件により、子ども家庭支援センターへの連絡を行った。</p> <p>また、他県や隣接市等から武蔵村山市にきた方や、引っ越し等による近隣住民との繋がり等、子育て交流の場を設けることで、コミュニティ形成の手助けとなった。</p> <p>口コミ・広報等により、地域に孤立した母親の育児相談・悩み相談等に答え、コミュニティへの参加を促す事が出来た。</p> <p>また、広場や会の開催により、ネット同士でのコミュニケーション等直接的コミュニケーションの機会の減少、人間関係の希薄化等にたいして親同士の交流を持つ場を設け、抱え込みやすい環境を打破する場と機会を持つことができた。</p> <p>保育園出張・福祉祭り・中原出張・障害児者施設訪問等では、異年齢交流の場を持つことができ、地域でする子育てのスタートとなった。</p> <p>広場では、様々な悩みを持つ親の育児不安軽減を図り、知識と情報の提供、子ども家庭支援センターへの連絡などを行い、連携を図れた。</p> <p>青空広場他、事業全般の活動により、親が子どもの個性を感じる機会を持ち、子どもの自己肯定力を高める機会を持ち、子を認め、子も認められることで、他者を認め尊重する機会となった。</p> <p>こうした子育て支援・親支援を行う事で、昔とは違う現代ならではの育児を取り巻く環境に対して、直接的コミュニケーションの場、つまり、コミュニティ形成の場を設けるという子育て支援を行う事で、子育てしやすい環境づくりの第一歩ができた。また、その中で、親子での交流の仕方等を共に考えることで、育児を楽しくできる環境の提供ができた。</p>

## 2 今後の展望

※ 団体育成型事業の提案者は、将来、市とどのように協働事業を展開したいのか詳しく記入してください。

平成 26 年度は協働事業部門での採択を頂きました。

平成 25 年度団体育成型事業で実施させて頂いております事業を基本としながら、26 年度提案でもある、地域の児童館子育て支援拠点化事業を行い、子育て支援体制の強化を図っていく事が出来たら良いと考えています。

現在は、子ども家庭支援センターを中心とした子育て支援体制となっております。

今後、子育て支援課・保育担当課との連携により、各地域にある児童館を、母子ともに安心して遊びに来ることができ、育児相談の場や、コミュニティ形成の場として 0 歳児から利用しやすい子育て支援施設として機能・開放していくことができたらと考えております。

私たちスタッフが 0 歳から利用しやすくなる環境設定等の企画提案を行わせて頂きます。

また、子育て支援の広報活動においても、児童館が 0 歳からの子育て支援施設であることの広報を、未就園児から利用しやすい児童館の広報活動について

(市報・出生届・3～4 か月検診・1 歳 6 か月検診・2 歳児検診・3 歳児検診・ビーバー歯科検診) 等他課との連携を取っていただけたらと思います。

また、現在行っている、地域でする子育てとして、幼から老までを繋ぐ様々な子育て支援活動においても、子育て支援課・保育担当課との連携で、よりスムーズな会の開催が可能となれば良いと考えております。

例えば、公園等を使用した青空広場等においては、私たち団体が企画提案を行い、企画書などを持って子育て支援課に申請・受理を頂き、子育て支援課には公園の使用許可等の手続き等、他課との連携を取って頂きますと、よりスピーディに動く可能性が広がります。

こうした子育て支援体制の強化活動により、私たち親も「安心して子育て出来る環境」の武蔵村山に住んで良かったと思える事。また、武蔵村山に「住んでみたい」と思える環境になる事。子どもたちも、「武蔵村山っていいよね」と思える環境になることを目指して、市と協働していきたいと思っております。

(添付書類)

- (1) 協働事業自己評価書 (第 7 号様式)
- (2) 協働事業提案制度収支決算書 (第 8 号様式)
- (3) 協働事業の内容がわかるもの (チラシ・パンフレット、写真等)

協働事業自己評価書

評価のポイント		自己評価	評価の理由
事業目的	事業の目的はどこまで達成できたか。	5 できた ④ 3 2 1 できなかった	ほぼ達成できた。 しかし、子育てに悩む母親をはじめ、家族は多様化し、顕在化していないケースも沢山あり、26年度事業を始めとして、0歳から子育てしやすいまち作りの取り組みとしていきたいと考える。
	事業スケジュールに問題はなかったのか。	⑤ 問題はなかった 4 3 2 1 問題があった	実施スケジュールは問題なかった。しかし、障害児者施設訪問等は、流行性の風邪等により訪問出来ない事もあった。また、保育園からの依頼等については、日程の調整がつかなかった。
事業内容	課題に対する事業の効果はどうだったか。	5 効果があった ④ 3 2 1 効果がなかった	毎月行っている子育て支援2事業他、親子コミュニティ広場等においては、育児中の母親支援となり、沢山の笑顔となって表れている。また、育児相談などにより、問題解決にも繋がり、コミュニティ形成もでき、親と子の成長の手助けとなっている。 また、その他ワークショップにより、子どもの可能性を広げる活動となり、地域の輪を繋ぐ架け橋になった。
	設定した事業の効果は得られたか。	⑤ 得られた 4 3 2 1 得られなかった	子育て支援の行き届きにくい親子への支援となった。また、親子のアタッチメント形成と親子交流・親同士の交流となり、コミュニティ形成へと繋ぐことができた。
	組織内部で事業を検証し、改善点等を話し合ったか。	⑤ 話し合った 4 3 2 1 話し合わなかった	常に話し合いを持っており、出張事業等においても反省会等の開催を行い、今後の検討も行う事ができた。
	継続の可能性は高まったか。	⑤ 高まった 4 3 2 1 高まらなかった	活動を展開していく中で、新規参加者、新規メンバー等の加入もあり、継続に向けて努力を続けている。
	効率的なコストで事業運営はできたか。	⑤ できた 4 3 2 1 できなかった	各活動において使用する物等について、各家庭へ廃材等の提供も呼びかけており、低コストでの活動に心掛けている。

協働という事業形態

事業の実施方法や手法はどうだったか。	<p>5 ふさわしかった  <input checked="" type="radio"/> 4                      3                      2                      1 ふさわしくなかった</p>	<p>ほぼ、問題ないと思われる。                      保育園出張に関しては、スケジュール調整を今後も図っていけると良いと考える。</p>
協働事業の役割分担はどうだったか。	<p>5 ふさわしかった                      4                      3  <input checked="" type="radio"/> 2                      1 ふさわしくなかった</p>	<p>情報交換や他部署との連携がうまくできなかった。</p>
事業の実施体制はどうだったか。	<p><input checked="" type="radio"/> 5 よかった                      4                      3                      2                      1 よくなかった</p>	<p>よかったと思います。                      26年度協働事業の糧となったと思います。</p>
協働事業としての意義と必要性はどうか。	<p><input checked="" type="radio"/> 5 高まった                      4                      3                      2                      1 高まらなかった</p>	<p>市の子育て支援体制の土台となり、子育てしやすいまちづくりの一つとして、必要な事業であると考えています。</p>
単独で実施するより効率的・効果的に実施できたか。	<p><input checked="" type="radio"/> 5 できた                      4                      3                      2                      1 できなかった</p>	<p>単独では、実施の難しかった広報や周知もでき、効率的・効果的であった。</p>
市民活動団体等の持つ特性を發揮できたか。	<p><input checked="" type="radio"/> 5 できた                      4                      3                      2                      1 できなかった</p>	<p>十分に發揮できた。草の根的なつながりや、口コミでの広がりや協力者等、ある意味制約の少ない市民団体だからこそ、できたことも多いと自負しています。</p>
事業に最もふさわしい協働形態が選択されたか。	<p><input checked="" type="radio"/> 5 選択された                      4                      3                      2                      1 選択されなかった</p>	<p>選択されたと思います。</p>
協働相手は妥当だったか。	<p><input checked="" type="radio"/> 5 妥当だった                      4                      3                      2                      1 妥当ではなかった</p>	<p>妥当であった。</p>
事前の話し合いを十分に行い、役割は明確になっていたか。	<p>5 なっていた                      4  <input checked="" type="radio"/> 3                      2                      1 なっていなかった</p>	<p>協働推進課に様々にご指導を頂き、役割の明確化をしていただきました。</p>

	事業の進捗状況などについて情報交換等意思疎通は十分だったか。	5 十分だった 4 ③ 2 1 十分ではなかった	私たちの事業内容の説明も足りない事もあり、十分ではなかったと思います。
	課題の発生に際し、適切に対応したか。	5 対応した 4 ③ 2 1 対応しなかった	各会の内容に関しては課題等とはとくにありませんでしたが、実施にあたり、協働推進課のお力をお借りしました。
	今後の課題と改善策を互いに話し合ったか。	⑤ 話し合った 4 3 2 1 話し合わなかった	協働推進課のお力をお借りし、話し合いました。
市民ニーズの充足	市民のニーズは適切に把握できていたか。	⑤ できた 4 3 2 1 できなかった	市民の方々からも、私たちの団体が子育てに関する一つの窓口としての認識が徐々に広がってきたため、ある程度のニーズは把握することができていたと感じています。
	市民のニーズに応えられたか。	5 応えられた ④ 3 2 1 応えられなかった	現状の活動のなかで対応できることに関しては、応えられたと思います。しかし、隠れたニーズや育児に悩む母やその家族等、さらに多岐にわたる問題等が予想されるため、よりきめ細かな子育て支援体制が強化できればと考えます。
実施能力	事業を実施して、団体の実施能力は向上したか。	⑤ 向上した 4 3 2 1 向上しなかった	メンバーで力を合わせ実施する事、また回数を重ねたことにより、より向上したと思います。
その他	事業実施を通して学んだことは何か。		協働事業提案制度の制度に対する認知がまだまだ低く、私たちの広報活動も様々な工夫を行い、広く協働というものを周知していく必要があると感じました。また、各課との連携の難しさ等も、学び今後の糧としたいと思いました。
	新たに気付いた課題は何か。		時代の変化と共に、核家族化、地域のつながりの希薄化が進み、親が親となりにくく、子が健やかに育つ環境が減ってきています。私たちは、今ある親のニーズを受け止め、柔軟に地域でする子育て環境を作っていく必要があると感じました。

注 各項目について1（低い）から5（高い）までの5段階評価により自己評価を行ってください。

協働事業提案制度収支決算書

提案団体名 いつひよファミリー ウイズのりえ with石田倫依

提案事業名		子育てサポートプロジェクト			
項目	予算額 (A)	決算額 (B)	増減 (A)-(B)	備考	
<b>【収入の部】</b>					
協働事業補助金 (団体育成部門)	300,000	300,000	0		
コミュニティ広場参加料 (材料費含)	20,000	0		決算に含まず。 (会運営費とする。)	
収入合計	320,000	300,000 (C)	(20,000)		
<b>【支出の部】</b>					
人件費 (制作物作成人件費 会場スタッフ・消耗品仕入れ等)	97,000	91,500	5,500	企画内容により数量増減あり。	
消耗品費<材料費・消耗品費購入費> (布・糊・テープ・折紙・画用紙等材料費)	50,000	52,007	▲2,007		
備品購入費 (パネルシアタースタンド・ アクリル板 (中空ポリカーボネート板) 不織布・Pペーパー ハンズフリーマイク×2 暗幕他)	95,700	94,976	724	パネルシアタースタン ド (26,250) アクリル板 (2,810) 不織布 (1,000) Pペーパー (1,780×5) ハンズフリーマイク (12,800×2) 暗幕 (3,000×1)	
報償費 (5,000円×2回 3,000円×2名×3回)	28,000	10,000	18,000	報償費1回 10,000円に変更	
印刷製本費 (チラシ・お便り・計画書・報告書等)	40,000	40,653	▲653		
保険料 (1日保険 (イベント保険) 30円/ 人×140人)	4,200	2,490	1,710		
賃借料 (さくらホールリハーサル室使用料 700円×3回+ピアノ賃借料 1,000円×3 回)	5,100	0	5,100		
支出合計	320,000	291,626 (D)	(28,374)		
収支差額 (C) - (D)		8,374	8,374	助成金返却金	

注

- 1 補助対象となる経費と対象とならない経費については募集要項を参考にしてください
- 2 自己財源、他の補助金等を充当して事業を実施した場合は、必ず記入してください
- 3 受益者負担がある場合は、具体的な内訳を記入してください

平成26年 4月 10日

武蔵村山市長 殿

実施団体名 特定非営利活動法人  
むさしむらやま子ども劇場  
所在地 武蔵村山市本町1-6-3  
代表者職・氏名 理事長 並木 鈴子

## 協働事業提案制度事業結果報告書

平成25年 3月28日付武収第3781号の2をもって決定を受けた実施事業に係る事業成果等を下記のとおり報告します。

記

### 1 実施事業について

実施事業名	ちびっ子名人育成プロジェクト
実施日時又は期間	平成25年7月 2日～平成24年11月 2日 (別紙日程表2枚の通り)
対象者の範囲及び人数	市立一小・二小の放課後子ども教室に登録する子どもたちのうち、参加希望児童。参加人数は、1回あたり30名～80名。 昨年実施した九小と雷塚小でも1回だけワークショップを開催した。
実施事業内容	こまとけん玉の技の段階を記した認定表をひとりずつ持ち、それに沿ってプロの指導下で練習し、ひとりひとりが努力してクリアしていく中で、がんばればだれでもできるという伝承遊びの利点を生かし、達成感を体感する。さらにうまくなった子は、小さな子や遅れている子に教え、その子ができるとともに喜び、指導者やスタッフと関わりながら、ゲームの中で社会的ルールや規範を学ぶ。
具体的な活動状況	※事業の様子がわかる写真がある場合には別紙で添付してください。 7月は、プロによるデモンストレーションを1回行い、9月・10月は毎週1回のワークショップで、指導を受けながら技をひとつずつ身に付けていく。こまとけん玉2種類の認定表をそれぞれがもち、できる自信がいたら、検定を受けるという宣言後、スタッフの目の前でできたら合格印を押すというルールとし、最後はデエダラまつりのステージ上で、一般の皆さんに披露することとしたが、雨天で中止だったため、改めて市民会館小ホールでの披露となった。



### 事業の成果（総括）

事業実施により課題がどのように解決したかを具体的に記入してください。

学校の評価によらない、誰でも努力すればうまくなる伝承遊びのこまとけん玉だけにしたことに加え、認定表によってひとつずつ段階をクリアすることで目標設定が一人ずつできたことで、子どもたちは達成感や自己肯定感を体験できた。また、自然に他の子どもに指導する子が出てきたり、友達がクリアできたことをともに喜ぶという一体感や共有も体験できた。小さな1年生でも努力をしている子は上手になり、自分より上の学年の子の前でも胸を張って挑戦していたことは、大きな自信につながった。あまり上手ではない子も5～6段階はクリアできるよう配慮し、そこを過ぎるとどの子にも難しくなるよう認定表を工夫したので、ひとりだけできない子や後から参加して何もできない子は生まれなかったことも、他者への思いやりやコミュニケーションの障害にならないという利点があった。

中には、こんなにひとつのことに集中し努力できる子だったとはと、支援員さんが感動する場面もあり、概ね課題は達成できた。

## 2 実施事業の成果と課題

評価のポイント	自己評価
事業の目的はどこまで達成できたか。	ほぼ達成できた。
課題に対する事業の効果はどうだったか。	支援員さんたちの協力もあり、とても有意義な体験ワークショップができ、当初設定した効果は概ね達成できた。
事業の実施方法や手法はどうだったか。	毎週行ったことがわかりやすく、参加しやすい状況を作ることに繋がった。 また、認定表の段階の設定が、無理がなく良かった。
協働事業や役割分担はどうだったか。	子どもへの広報や、学校との調整、指導員さんたちとの細かな調整は生涯学習課が担い、団体スタッフは、ワークショップの実施を担当したので、とてもよかった。
事業の実施体制はどうだったか。	支援員さんの協力が昨年以上で、体制強化に大いにつながった。
事業スケジュールに問題はなかったか。	二年目なので、計画回数に昨年度実施した学校への訪問を加え実施した。日程調整は市担当者にお任せし、子どもたちにはよかった。
新たに気づいた課題は何か。	他校の児童との交流が発表会当日だけでなく、他にも持てると良いと思う。
協働事業としての意義と必要性はどうか。	団体だけで実施していたら、それぞれの子どもたちの日頃の様子がわからないので、子どもに合せたきめ細かな指導ができないということと、学校との調整という負担がないことで、充実した取組ができた。



### 3 事業の成果

子どもたちを褒めてあげる機会が多いワークショップは、子どもの心にもゆとりをつくり、他者への思いやりが自然に出てくるという、本来子どもたちが持っている力を引き出すことができると感じました。できなくても放り投げてしまうほど悔しがらなく、できるようになったら友達と競争しますが、負けてもあまり傷つかないようで、再挑戦するという場面も多くみられ、柔らかな心を育てるための有効なワークショップでした。途中で飽きてしまっても、みんなが楽しそうに続けているとまた近づいてくる子どももいて、何の抵抗もなくまた参加することができ、放課後支援員の皆さんの協力もあり、それぞれの子どもの特性が見える取り組みでした。

### 4 協働プラン

\*団体育成部門の提案者は、将来、市とどのように協働事業を展開したいのか詳しく書いてください。



## 協働事業自己評価書

評価のポイント		自己評価	評価の理由
事業目的	事業の目的はどこまで達成できたか。	⑤ できた 4 3 2 1 できなかった	担当課も当方も2年目なので、余裕を持って取り組めたことが、目的達成につながった。
	事業スケジュールに問題はなかったのか。	5 問題はなかった ④ 3 2 1 問題があった	予定の日に体育館を使用できなかったり、デエダラまつりが雨で中止になり、対応を必要とした。
事業内容	課題に対する事業の効果はどうだったか。	5 効果があった ④ 3 2 1 効果がなかった	披露の場が市民会館だったため、保護者等への披露で終わってしまった。
	設定した事業の効果は得られたか。	⑤ 得られた 4 3 2 1 得られなかった	他者とのかかわりや自然にできる規範を守るシーンが数多く見られた。
	組織内部で事業を検証し、改善点等を話し合ったか。	⑤ 話し合った 4 3 2 1 話し合わなかった	常に連携をしながら、改善を重ねた。
	継続の可能性は高まったか。	5 高まった ④ 3 2 1 高まらなかった	昨年取り組んだ学校への訪問は、とても有効だったが、新たに加わった子どもたちへの取り組みの必要性を感じた。
	効率的なコストで事業運営はできたか。	⑤ できた 4 3 2 1 できなかった	プロ講師に多少回数が増えても同額でお願いできたので、増額なく子どもたちの状況に合わせることができた。
	事業の実施方法や手法はどうだったか。	⑤ ふさわしかった 4 3 2 1 ふさわしくなかった	協働にも慣れ、昨年より有効に実施できた。

協働という事業形態	協働事業の役割分担はどうだったか。	⑤ ふさわしかった 4 3 2 1 ふさわしくなかった	担当課の協力以外に、放課後支援員の皆さんも大きな役割を果たしてくれたことが、昨年よりずっと良かった。
	事業の実施体制はどうだったか。	⑤ よかった 4 3 2 1 よくなかった	効率的に出来た。
	協働事業としての意義と必要性はどうか。	⑤ 高まった 4 3 2 1 高まらなかった	2年目ということでこちらに余裕ができたからか、放課後支援員の協力が良かったからか、一人一人の子どもたちの変化に気を配ることができた。
	単独で実施するより効率的・効果的に実施できたか。	⑤ できた 4 3 2 1 できなかった	非常に効率的にそれぞれの役目を果たすことができた。
	市民活動団体等の持つ特性を発揮できたか。	⑤ できた 4 3 2 1 できなかった	十分に出来た。
	事業に最もふさわしい協働形態が選択されたか。	⑤ 選択された 4 3 2 1 選択されなかった	最もふさわしく、安心して取り組めた。
	協働相手は妥当だったか。	⑤ 妥当だった 4 3 2 1 妥当ではなかった	ベストマッチだった。
	事前の話し合いを十分に行い、役割は明確になっていたか。	⑤ なっていた 4 3 2 1 なっていなかった	十分な話し合いで、昨年より充実した取組にできた。
	事業の進捗状況などについて情報交換等意思疎通は十分だったか。	⑤ 十分だった 4 3 2 1 十分ではなかった	情報交換等意思疎通は日常的に行えて充分だった。

	課題の発生に際し、適切に対応したか。	⑤ 対応した 4 3 2 1 対応しなかった	課題の発生は予想範囲内だったので、問題なく対応できた。
	今後の課題と改善策を互いに話し合ったか。	⑤ 話し合った 4 3 2 1 話し合わなかった	改善策については、充分話し合っている。
市民ニーズの充足	市民のニーズは適切に把握できていたか。	5 できた ④ 3 2 1 できなかった	それぞれの児童にあわせてできた。
	市民のニーズに応えられたか。	5 応えられた ④ 3 2 1 応えられなかった	子どもたちの気持ちを大事に取り組めた。
実施能力	事業を実施して、団体の実施能力は向上したか。	⑤ 向上した 4 3 2 1 向上しなかった	より効率的に実施できた。
その他	事業実施を通して学んだことは何か。	子どもたちの日常をわかっている支援員の皆さんの参加が、子どもたちの変化をきちんと捉え、ほめたりアドバイスしたりするシーンが昨年より多く見られて、子どもたちの姿勢に大いに影響した。 放課後支援員の皆さんも一緒に頑張る姿が、子どもたちへの刺激にもなりとても良い雰囲気だったことから、大人も一緒に参加する必要性を感じた。	
	新たに気付いた課題は何か。	この事業もいよいよ次年度は3年目の最終年度なので、6校全体での取り組みには、これまでを生かし将来につなげるための工夫が必要であると感じている。 協働担当課とじっくり話し合おうと思っている。	

注 各項目について1（低い）から5（高い）までの5段階評価により自己評価を行ってください。



## 協働事業提案制度収支決算書

提案団体名 特定非営利活動法人 むさしむらやま子ども劇場

提案事業名		ちびっ子名人育成プロジェクト			
項目	予算額 (A)	決算額 (B)	増減 (A) - (B)	備考	
<b>【収入の部】</b>					
市補助金	980,000	980,000	0		
自己財源	0	43,158	-43,158		
収入合計	980,000	1,023,158 (C)	-43,158		
<b>【支出の部】</b>					
人件費	180,000	200,000	-20,000		
講師報償費	600,000	600,000	0		
印刷製本費	30,000	30,000	0		
備品購入費	160,000	181,958	-21,958		
通信費	10,000	0	10,000		
市民会館使用料	0	11,200	-11,200		
支出合計	980,000	1,023,158 (D)	-43,158		
収支差額 (C) - (D)		-43,158			

注

- 1 補助対象となる経費と対象とならない経費については募集要項を参考にしてください
- 2 自己財源、他の補助金等を充当して事業を実施した場合は、必ず記入してください
- 3 受益者負担がある場合は、具体的な内訳を記入してください



年 月 日

武蔵村山市長 殿

実施団体名 公益社団法人 立川青年会議所  
 所在地 立川市曙町2-38-5 12階  
 代表者職・氏名 理事長 宇都木 健太

協働事業提案制度事業結果報告書

年度における協働事業の実施が終了したので、その成果等を下記のとおり報告します。

記

1 実施事業について

実施日時又は期間	平成25年4月1日～平成25年11月24日
対象者の範囲及び人数	市内小学生 229名
実施事業内容	市内小学生を対象に「みんなで挑戦」というテーマで各校にて縄跳び8の字跳びを通じ、「他を思いやる心の育成」・「挑戦する事の大切さ」を学ぶため2回のプログラム
具体的な活動状況	6/29 「思いやる心の育成」をテーマに育成プログラムを開催 8/5 「挑戦に向けた心身の育成」をテーマに育成プログラムを開催 10/9 本会「第894回例会」にて挑戦に向けた心の発表 11/24 参加5校における大会及びギネス世界記録挑戦 その他各校にて練習会を開催
事業の成果	※ 事業実施により課題がどのように解決したかを具体的に記入してください。 本事業に参加した子供たちは「みんなで挑戦」というテーマに積極的に取り組んできた事により、他を思いやる心・何事にも挑戦出来る強い心を育む経験を通じ、社会問題になっている「いじめ」や「無関心」の風潮の改善へ寄与し、また自信をつけることで自己肯定感の向上に寄与することができた。また、次代の子供たちに「挑戦する機会」から学び得るものの素晴らしさを伝える事が期待でき、次代に向けた青少年育成の一助となった。



## 協働事業自己評価書

評価のポイント		自己評価	評価の理由
事業目的	事業の目的はどこまで達成できたか。	5 できた 4 ○ 3 2 1 できなかった	子供たちに挑戦する機会を与え、その経験を通じ、仲間意識や思いやる心の醸成を図る事は出来たが、ギネス記録更新とまでは至らなかった。
事業内容	事業スケジュールに問題はなかったのか。	5 問題はなかった 4 3 ○ 2 1 問題があった	競技である縄跳びは冬向けの競技であり、真夏の練習は過酷な面があったが、各事業の日程には問題ないと考える。しかし大会は年度の後半に準備することが望ましいと考える。
	課題に対する事業の効果はどうだったか。	5 効果があった 4 ○ 3 2 1 効果がなかった	我々地域団体と行政の相乗効果で地域の子供たちの健全な青少年育成が出来たと考える。
	設定した事業の効果は得られたか。	5 ○得られた 4 3 2 1 得られなかった	各事業ごとに目的を付け実践してきた事は、効果的であったと考える。
	組織内部で事業を検証し、改善点等を話し合ったか。	5 ○話し合った 4 3 2 1 話し合わなかった	本会理事会にて検証をし、引き継ぎが出来るよう報告書を作成した。
	継続の可能性は高まったか。	5 ○高まった 4 3 2 1 高まらなかった	開催後に参加校校長から次回開催を熱望されており、求められている事業と判断している。
	効率的なコストで事業運営はできたか。	5 ○できた 4 3 2 1 できなかった	ギネス費用は高額ではあったが、子供たちにこのような経験をさせてあげられた事は効率的なコストであったと考える。

協働という事業形態	事業の実施方法や手法はどうだったか。	5 ふさわしかった 4○ 3 2 1 ふさわしくなかった	各校の協力も頂き各校長先生とも相談しながらの実施だったので特に問題はないと考える。
	協働事業の役割分担はどうだったか。	5○ ふさわしかった 4 3 2 1 ふさわしくなかった	場所の確保や学校との連絡調整を担当課にお願いした事によって円滑な事業運営が出来た。
	事業の実施体制はどうだったか。	5 よかった 4○ 3 2 1 よくなかった	担当課の方にもお越し頂き、指導を受けながら、出来たと考える。
	協働事業としての意義と必要性はどうか。	5○ 高まった 4 3 2 1 高まらなかった	今回のように学校との連携が必須な事業では、行政の協力無しでは難しい点があると考えため、必要性は十分に考える。
	単独で実施するより効率的・効果的に実施できたか。	5○ できた 4 3 2 1 できなかった	行政の得意分野と我々地域団体の得意な所の相乗効果で事業を行なう事が出来た。単独開催では、効率・効果は期待よりも下回ってしまう事も考えられる。
	市民活動団体等の持つ特性を發揮できたか。	5 ○できた 4 3 2 1 できなかった	行政では難しい突発的な事でも対応が出来たと考える。
	事業に最もふさわしい協働形態が選択されたか。	5 選択された 4 3○ 2 1 選択されなかった	今回の担当課以外にも関わる事が出来れば、また違った形でも青少年の育成事業を行なえる可能性がある。
	協働相手は妥当だったか。	5 ○妥当だった 4 3 2 1 妥当ではなかった	今回の事業に関しては妥当と考える。
	事前の話合いを十分に行い、役割は明確になっていたか。	5 なっていた 4 3○ 2 1 なっていなかった	開催直前までに準備が整わない事があったが、役割を明確にし、相談しながら運営した。

	事業の進捗状況などについて情報交換等意思疎通は十分だったか。	5 十分だった 4 3 ○ 2 1 十分ではなかった	常に連絡をしあい問題なく進められた。しかし、最終決定等の連絡が遅れてしまった事はあった。
	課題の発生に際し、適切に対応したか。	5 ○ 対応した 4 3 2 1 対応しなかった	突発的な事にも連絡しあい適切に対応出来た。
	今後の課題と改善策を互いに話し合ったか。	5 ○ 話し合った 4 3 2 1 話し合わなかった	協働事業を行なうにあたり、準備や協力体制のお願いを事前に行なう事により、スムーズな事業展開が出来る。
市民ニーズの充足	市民のニーズは適切に把握できていたか。	5 できた 4 ○ 3 2 1 できなかった	子供たちの成長には、地域の大人の支えが必要である
	市民のニーズに応えられたか。	5 ○ 応えられた 4 3 2 1 応えられなかった	今回の事業を通じて、行政と地域団体が子供たちの青少年育成に取り組んだ事で、ニーズに応えたと考える。
実施能力	事業を実施して、団体の実施能力は向上したか。	5 ○ 向上した 4 3 2 1 向上しなかった	今回の事業を開催出来た事によって、より行政・学校との関係が築く事が出来、今後の活動にもプラスとなったと考える。
その他	事業実施を通して学んだことは何か。	事業タイトルである「みんなで挑戦 未来の自分に自信と誇りを」は子供たちのために考えたタイトルではありましたが、事業を組み立てている我々自体も協力者の温かい気持ちや想いを頂きました。 困難な事もみんなで協力しあえば、成し遂げる事が出来、また更に今後の活動にも応用が出来る事業だと思います。	
	新たに気付いた課題は何か。	我々青年会議所は西暦での年度替わりのため行政や学校との時間軸の差が発生してしまう事から、今後は年度を跨ぎ事業が開催し継続出来る形を構築することも視野に入れていきたいと考える。	

協働事業提案制度収支決算書

提案団体名 公益社団法人 立川青年会議所

提案事業名		「みんなで挑戦 未来の自分に自信と誇りを」			
項目	予算額 (A)	決算額 (B)	増減 (A) - (B)	備考	
【収入の部】					
市交付金	738,000	738,000	0		
立川青年会議所 事業予算	1,200,000	1,098,286	101,714		
協賛金		210,000	210,000		
収入合計	1,938,000	2,026,286 (C)	-88,286		
【支出の部】					
会場設営費	0	42,000	-42,000		
企画設営費	1,292,000	1,417,065	-125,065		
講師関係費	200,000	52,500	147,500		
広報費	150,000	183,950	-33,950		
資料作成費	30,000	2,540	27,460		
報告書作成費	80,000	67,201	12,799		
旅費交通費	10,000	178,800	-168,800		
保険料	36,000	18,422	17,578		
通信費	10,000		10,000		
雑費	50,000	41,388	8,612		
予備費	80,000		80,000		
支出合計	1,938,000	2,026,286 (D)			

26年4月4日

武蔵村山市長 殿

実施団体名 〒208-0035  
 所在地 東京都武蔵村山市中原1-9-36  
 代表者職・氏名 グラシオス 佐藤由美子  
 TEL 090-5307-5573  
 FAX 042-531-8339

協働事業提案制度事業結果報告書

年度における協働事業の実施が終了したので、その成果等を下記のとおり報告します。

記

1 実施事業について

実施日時又は期間	平成25年4月1日～平成26年3月31日
対象者の範囲及び人数	市内小学校3校
実施事業内容	花・球根の植え込み
具体的な活動状況	花壇・プランター・敷地などに、児童と一緒に、花・球根などを植えた。
事業の成果	※ 事業実施により課題がどのように解決したかを具体的に記入してください。 児童へ花の植え方・育て方を教えて、植物を育てるという事楽しさという事を学ばせた。(花育) 上手な育て方を覚える事により長くきれいに咲かせるコツを知り、豊かな環境づくりができた。



## 2 今後の展望

※ 団体育成型事業の提案者は、将来、市とどのように協働事業を展開したいのか詳しく記入してください。

将来は、市と共に、武蔵村山市内を花いっぱいにする  
素敵な街づくりを目指したいと思っています。

公共建物周辺、モルセル駅ができた時の駅周辺  
主要道路又は、特定エリアのフーズロードなど、

花と緑でおふれは街を協働事業として展開に  
いきたいと思っています。

(添付書類)

- (1) 協働事業自己評価書 (第7号様式)
- (2) 協働事業提案制度収支決算書 (第8号様式)
- (3) 協働事業の内容がわかるもの (チラシ・パンフレット、写真等)

(日本工業規格A列4番)



協働事業自己評価書

評価のポイント		自己評価	評価の理由
事業目的	事業の目的はどこまで達成できたか。	⑤ できた 4 3 2 1 できなかった	花育. 豊かな環境作り どちらも達成できた。
	事業スケジュールに問題はなかったのか。	⑤ 問題はなかった 4 3 2 1 問題があった	内容がしっかりできている 問題ありませんでした。
事業内容	課題に対する事業の効果はどうだったか。	⑤ 効果があった 4 3 2 1 効果がなかった	花を楽しくさせた。 この事業が子供達の心に "花を育てよう"という事を学ばせた。
	設定した事業の効果は得られたか。	⑤ 得られた 4 3 2 1 得られなかった	得られた。
	組織内部で事業を検証し、改善点等を話し合ったか。	⑤ 話し合った 4 3 2 1 話し合わなかった	各学校での内容が違っていて 何回もミーティングをし話し合 いをしました。
	継続の可能性は高まったか。	⑤ 高まった 4 3 2 1 高まらなかった	児童の楽しそうな様子。 花が咲いていく事の豊かな 環境、継続する意味が ありと思いました。
	効率的なコストで事業運営はできたか。	5 できた ④ 3 2 1 できなかった	収支予算と少し違いますが できたには、又もつけません でした。
事業の実施方法や手法はどうだったか。	5 ふさわしかった 4 3 2 ① ふさわしくなかった	学校側に、アンケートを 内容を決めさせるのは、 ふさわしくなかったように 思いました。	

協働という事業形態	協働事業の役割分担はどうだったか。	⑤ ふさわしかった 4 3 2 1 ふさわしくなかった	ふさわしかった。
	事業の実施体制はどうだったか。	⑤ よかった 4 3 2 1 よくなかった	よかった。
	協働事業としての意義と必要性はどうか。	⑤ 高まった 4 3 2 1 高まらなかった	高まった。
	単独で実施するより効率的・効果的に実施できたか。	⑤ できた 4 3 2 1 できなかった	できた。
	市民活動団体等の持つ特性を発揮できたか。	⑤ できた 4 3 2 1 できなかった	団体活動ではないと、この事業は、できないのでは、できなかったと思います。
	事業に最もふさわしい協働形態が選択されたか。	⑤ 選択された 4 3 2 1 選択されなかった	選択されたと思います。
	協働相手は妥当だったか。	⑤ 妥当だった 4 3 2 1 妥当ではなかった	小学校対象なので、妥当だったと思います。
	事前の話合いを十分にを行い、役割は明確になっていたか。	⑤ なっていた 4 3 2 1 なっていなかった	指導課はアンケートもFAX窓口、問合せ窓口になってもらい、打合せ～実施は、こちらで実施の良かったです。
事業の進捗状況などについて情報交換等意思疎通は十分だったか。	5 十分だった ④ 3 2 1 十分ではなかった	実施内容等について、もう少し詳しく伝えた方が良かったと思いました。	

	課題の発生に際し、適切に対応したか。	⑤ 対応した 4 3 2 1 対応しなかった	対応できた。
	今後の課題と改善策を互いに話し合ったか。	⑤ 話し合った 4 3 2 1 話し合わなかった	学校側の要をどこまで入れていくのか、話し合いました。
市民ニーズの充足	市民のニーズは適切に把握できていたか。	⑤ できた 4 3 2 1 できなかった	できていたと思っております。
	市民のニーズに応えられたか。	⑤ 応えられた 4 3 2 1 応えられなかった	応えられたと思っております。
実施能力	事業を実施して、団体の実施能力は向上したか。	⑤ 向上した 4 3 2 1 向上しなかった	実施した事により、その事が勉強になり向上したと思っております。
その他	事業実施を通して学んだことは何か。		初年度より次年度、次年度より3年目。やはり、やってみて初めてわかる事って沢山あると思っております。そしてその事により、欠点を学び、さらにより良い、事業内容にしていくのだと思っております。
	新たに気付いた課題は何か。		各学校にアンケートを取り、行なってまいりましたが、今回「むすかり畑」のような大規模な事業内容になってしまうと、とても大変だったので、内容は話し合いで、こちらから提案しようと思っております。

注 各項目について1（低い）から5（高い）までの5段階評価により自己評価を行ってください。

（日本工業規格A列4番）



協働事業提案制度収支決算書

提案団体名 グラジオプランパートナー

提案事業名		小学生1の花育と豊かな環境作り		
項目	予算額 (A)	決算額 (B)	増減 (A) - (B)	備考
【収入の部】				
市補助金	300,000	300,000	0	
自己財源	30,000	35,000	△5,000	
収入合計		335,000(C)		
【支出の部】				
消耗品費	112,000	127,628	△15,628	
その他経費	48,000	31,195	16,805	
交通費	8,000	11,264	△3,264	
人件費	135,000	150,000	△15,000	
通信・印刷費	17,000	14,913	2,087	
消耗品費	10,000	0	10,000	
支出合計	330,000	325,000(D)		
収支差額 (C) - (D)				

注

- 1 補助対象となる経費と対象とならない経費については募集要項を参考にしてください
- 2 自己財源、他の補助金等を充当して事業を実施した場合は、必ず記入してください
- 3 受益者負担がある場合は、具体的な内訳を記入してください



26年4月4日

武蔵村山市長 殿

実施団体名 朗読グループ いるか會  
 所在地 武蔵村山市緑が丘1460・10-505  
 代表者職・氏名 池田奈保子

協働事業提案制度事業結果報告書

年度における協働事業の実施が終了したので、その成果等を下記のとおり報告します。

記

1 実施事業について

実施日時又は期間	平成25年4月15日～平成26年2月24日
対象者の範囲及び人数	○市内全小学校、9校、1回ずつ、1か2学年合同で60～135名 ○第八小朗読パフォーマンスクラブ入部者(3・4・5年)1年制前期・後期各14名
実施事業内容	①市内全小学校における「朗読体験教室」の実施 ②第八小に「朗読パフォーマンスクラブ」の開設 ③第八小児童による、市民会館での朗読発表会、及び講師による朗読会。
具体的な活動状況	①希望学年に70分、朗読体験と講師前原弘道氏の朗読の上演 ②4月～2月4年23回、月曜日の朝2:00～3:10(70分間)講師から継続的に朗読と継続の指導を受ける。 ③2月15日、市民会館での発表会は、100年ぶりの大雪で中止となり、急転、3月3日、第八小体育館にて、全校生、保護者の前で、子どもたちの朗読発表会を行う。
事業の成果	※ 事業実施により課題がどのように解決したかを具体的に記入してください。 朗読体験教室の感想文集と参照するとよく理解していたのではないかと思われ、今までプロの朗読を聴く機会が少なかったのが「朗読びんごおもしろくはない」と思っていた子どもたちも前原弘道氏の楽しいワークショップを体験する中で「声を出す事の喜び」を感じてもらえたようです。そして子どもたちから「国語の音読の時、はきりと気持ちをこめて読めた」「学校に活かしたい」等の声が出ました。





協働事業自己評価書

評価のポイント		自己評価	評価の理由
事業目的	事業の目的はどこまで達成できたか。	5 できた	<p>体験教室のオプニングとかがよく初々たる講師の第一印象にいい印象。もう朗読の世界にひきこまれ、学校によっては自然に講師と児童が話し合っている事が印象的でした。</p> <p>このように、どこでも楽しく朗読体験ができてほしいです。</p>
		④	
3			
2			
1 できなかった			
事業内容	事業スケジュールに問題はなかったのか。	5 問題はなかった	<p>6月・12月の体験教室は、冷暖房のない体育館だったので暑々何人も体調が悪くなり、スポーツ調理等、学校に負担をかけた。インフルエンザ流行も考慮し、6・12の2月は予定に入れられない方が良かった。</p>
	課題に対する事業の効果はどうだったか。	5 効果があった	
		④	
	3		
	2		
	1 効果がなかった		
	設定した事業の効果は得られたか。	5 得られた	
④			
3			
2			
1 得られなかった			
組織内部で事業を検証し、改善点等を話し合ったか。	⑤ 話し合った	<p>毎回、終了後、話し合い、次回どうしたら良いか検討しあった。</p>	
4			
3			
2			
1 話し合わなかった			
継続の可能性は高まったか。	5 高まった	<p>講師の先生が、体調不良の為継続ができません。</p>	
4			
3			
2			
① 高まらなかった			
効率的なコストで事業運営はできたか。	⑤ できた	<p>地域の方の協力、ボランティアによって運営できました。</p>	
4			
3			
2			
1 できなかった			
事業の実施方法や手法はどうだったか。	⑤ ふさわしかった	<p>市内9校の朗読教室では、かつ対象学年全員が朗読の楽しさに触れる事ができ、とても良かった。</p>	
4			
3			
2			
1 ふさわしくなかった			

協働という事業形態

<p>協働事業の役割分担はどうだったか。</p>	<p>⑤ ふさわしかった 4 3 2 1 ふさわしくなかった</p>	<p>教育指導課に各学校とコンタクト取っていただき、助かりました。</p>
<p>事業の実施体制はどうだったか。</p>	<p>⑤ よかった 4 3 2 1 よくなかった</p>	<p>各学校の対称学年の先生方がとても協力下さり、閉鎖体験教室がスムーズにできた。</p>
<p>協働事業としての意義と必要性はどうか。</p>	<p>⑤ 高まった 4 3 2 1 高まらなかった</p>	<p>子どもたちに楽しい朗読と、それを可能にする市内在住の講師を紹介し、市の場合は実施可能な準備をしていたので、協働事業での実施は不可能だったと思う。</p>
<p>単独で実施するより効率的・効果的に実施できたか。</p>	<p>⑤ できた 4 3 2 1 できなかった</p>	<p>・学年全員の子童を参加させたいという目的があったので、とても効果的であった。 ・チラシ配布なども学校関係と地域と分担できるとても良かった。</p>
<p>市民活動団体等の持つ特性を発揮できたか。</p>	<p>⑤ できた 4 3 2 1 できなかった</p>	<p>小学校によっては、国語の教科書を取り扱ってほしいとの要望があり、いくつか会として参加する事が出来た。</p>
<p>事業に最もふさわしい協働形態が選択されたか。</p>	<p>⑤ 選択された 4 3 2 1 選択されなかった</p>	<p>とても良かった。</p>
<p>協働相手は妥当だったか。</p>	<p>⑤ 妥当だった 4 3 2 1 妥当ではなかった</p>	<p>教育指導課との協働体制なくしては、実施不可能であった。</p>
<p>事前の話合いを十分に行い、役割は明確になっていたか。</p>	<p>⑤ なっていた 4 3 2 1 なっていなかった</p>	<p>役割は明確であった。</p>
<p>事業の進捗状況などについて情報交換等意思疎通は十分だったか。</p>	<p>5 十分だった 4 3 ② 1 十分ではなかった</p>	<p>全体的には良かったが、朗読発表会の準備における話し合いはもう少し早い時期から始めると良かった。</p>

	課題の発生に際し、適切に対応したか。	⑤ 対応した 4 3 2 1 対応しなかった	保護者への対応は直接ではないが、3/5の朗読発表会に参加を希望し、母や皆人に、先生方から連絡を取り、しっかりと対応していた。
	今後の課題と改善策を互いに話し合ったか。	5 話し合った 4 3 2 ① 話し合わなかった	
市民ニーズの充足	市民のニーズは適切に把握できていたか。	5 できた 4 ③ 2 1 できなかった	保護者にも、朗読の楽しさ、日本語の美しさ、おもしろさを知らせていく事の大切さを痛感した。
	市民のニーズに応えられたか。	5 応えられた ④ 3 2 1 応えられなかった	3/5の朗読パフォーマンス発表会の宣伝の際、教師OBや、るか会OB、地域の方々からの反応はとて大きかった。
実施能力	事業を実施して、団体の実施能力は向上したか。	5 向上した 4 ③ 2 1 向上しなかった	まわりの方々の協力により、少しづつですが、良くなったように思われます。
その他	事業実施を通して学んだことは何か。		「朗読の楽しさ」が現代の子供たちに伝わるか心配してしたが、筆を出すことの楽しさ、を理解してもらえる事が感想文集からもよくわかりました。 協働事業により、朗読発表会なども、場を貸すところもめりましたが、任務分担し、各々の仕事に専念できるとてもやりやすく、協働事業の良さを学びました。
	新たに気付いた課題は何か。		市内の小中学生全員に楽しい朗読を体験してもらうのと同時に、子どもたちに朗読への関心を継続的に進めていく為には、教師の方々が朗読の楽しさを学び、授業に生かせていただけたらと思います。

注 各項目について1（低い）から5（高い）までの5段階評価により自己評価を行ってください。



協働事業提案制度収支決算書

提案団体名 朗読グループ いるか会

提案事業名		小学生の為の朗読体験教室		
項目	予算額 (A)	決算額 (B)	増減 (A) - (B)	備考
【収入の部】				
市補助金	1,000,000	1,000,000	0	
収入合計		1,000,000 (C)		
【支出の部】				
講師報奨費	615,250	552,000	63,250	市内小学校7校・川12回
人件費	118,800	117,600	1,200	有償ボランティア 大日1,22回・42回・田23回
借上料	40,000	0	40,000	大重の為 公演中止
備品費	60,000	22,680	37,320	DVD 古典学習用教材
印刷製本費	13,950	2,195	11,755	エコー
消耗品費	130,000	126,829	3,171	DVD・文具・衣類・楽器等
通信費	22,000	14,880	7,120	切手・ハガキ・テレホンカード
支出合計	1,000,000	836,184 (D)	163,816	
収支差額 (C) - (D)		163,816		

注

- 1 補助対象となる経費と対象とならない経費については募集要項を参考にしてください
- 2 自己財源、他の補助金等を充当して事業を実施した場合は、必ず記入してください
- 3 受益者負担がある場合は、具体的な内訳を記入してください



# 資料編

資料 1 武蔵村山市市民協働推進会議要綱

資料 2 武蔵村山市市民協働推進会議委員名簿

資料 3 武蔵村山市協働事業提案制度における提案事業審査要領

資料 4 武蔵村山市協働事業提案制度実施要綱

資料 5 平成 25 年度武蔵村山市協働事業提案制度実施事業報告会実施要領

## ○武蔵村山市市民協働推進会議要綱

平成23年8月3日訓令（乙）第120号  
改正 平成24年3月27日訓令乙第21号  
改正 平成26年4月7日訓令乙第42号

（趣旨）

**第1条** この要綱は、武蔵村山市協働事業提案制度実施要綱（平成23年武蔵村山市訓令（乙）第119号）第15条第3項の規定に基づき、武蔵村山市市民協働推進会議（以下「推進会議」という。）の組織及び運営に関し必要な事項を定めるものとする。

（組織）

**第2条** 推進会議は、委員10人以内をもって組織する。

2 委員は、次に掲げる者をもって充てる。

（1）次に掲げるところにより市長が委嘱する者

ア 識見を有する者

イ 市民活動団体関係者

ウ 社会福祉法人武蔵村山市社会福祉協議会の代表者又は職員

エ 武蔵村山市商工会の代表者又は職員

オ 公募による市民（武蔵村山市内に住所を有し、又は武蔵村山市内に通勤し、若しくは通学する者をいう。）

（2）生活環境部長及び企画財務部長の職にある者

（座長等）

**第3条** 推進会議に、座長及び副座長1人を置き、委員の互選により選任する。

2 座長は、推進会議を代表し、会務を総理する。

3 副座長は、座長を補佐し、座長に事故があるとき、又は座長が欠けたときは、その職務を代理する。

（会議）

**第4条** 推進会議の会議は、座長が招集する。

2 推進会議は、委員の過半数が出席しなければ会議を開くことができない。

3 推進会議の議事は、出席した委員の過半数で決し、可否同数のときは、座長の決するところによる。

（任期）

**第5条** 第2条第2項第1号の規定により市長が委嘱する委員の任期は、2年とする。ただし、補欠の委員の任期は、前任者の残任期間とする。

2 前項の委員は、再任されることができる。

（庶務）

**第6条** 推進会議の庶務は、生活環境部協働推進課において処理する。

（委任）

**第7条** この要綱に定めるもののほか、推進会議の運営に関し必要な事項は、座長が推進会議に諮って定める。

附 則（平成24年 3 月 27 日訓令（乙）第21号）

附 則（平成26年 4 月 7 日訓令（乙）第42号）

この要綱は、平成26年 4 月 7 日から施行する。

## ○武蔵村山市市民協働推進会議委員名簿（敬称略）（平成26年1月16日委嘱、市職員は任命）

氏名	選出区分	備考
渡辺 龍也	会議要綱第2条第2項第1号ア 識見を有する者	東京経済大学現代法学部教授
鴻田 臣代	会議要綱第2条第2項第1号ア 識見を有する者	武蔵村山 NPO ネットワーク
瀬口 圭志	会議要綱第2条第2項第1号イ 市民活動団体関係者	武蔵村山市村山道下自治会役員
比留間 英世	会議要綱第2条第2項第1号ウ (社)武蔵村山市社会福祉協議会の代表者又は職員	(社)武蔵村山市社会福祉協議会 事務局長（平成26年1月16日 から平成26年3月31日まで）
中村 政義	会議要綱第2条第2項第1号ウ (社)武蔵村山市社会福祉協議会の代表者又は職員	(社)武蔵村山市社会福祉協議会 事務局長（平成26年4月1日か ら）
高橋 茂明	会議要綱第2条第2項第1号エ 武蔵村山市商工会の代表者又は職員	武蔵村山市商工会事務局長
北口 良夫	会議要綱第2条第2項第1号オ 公募による市民	公募による市民
本間 由美子	会議要綱第2条第2項第1号オ 公募による市民	公募による市民
前田 啓子	会議要綱第2条第2項第1号オ 公募による市民	公募による市民
山田 行雄	会議要綱第2条第2項第2号 生活環境部長の職にある者	生活環境部長
比留間 毅浩	会議要綱第2条第2項第2号 企画財務部長の職にある者	企画財務部財政担当部長（平成 26年1月16日から平成26年3 月31日まで） 企画財務部長（平成26年4月1 日から）

## ○武蔵村山市協働事業提案制度における提案事業審査要領

(平成26年1月16日市民協働推進会議決定)

## 1 趣 旨

この要領は、武蔵村山市協働事業提案制度実施要綱(平成23年武蔵村山市訓令(乙)第119号。以下「実施要綱」という。)第5条の規定に基づく提案について、実施要綱第6条第2項の規定により市民協働推進会議(以下「推進会議」という。)が当該提案事業の採択の適否の審査をするに際し、必要な事項を定めるものとする。

## 2 審査委員

審査委員は、推進会議の委員とする。

## 3 審査の通則

審査は、提案団体から提出された応募書類、応募書類に基づく提案団体からのプレゼンテーション及びこれに伴う質疑の結果を踏まえて審査する。

## 4 審査の方法

審査は第一次審査及び第二次審査により行い、第二次審査対象事業及び採択すべき事業の順位を決定する。また、第二次審査対象事業又は採択すべき事業において、点数が同点の事業がある場合には、出席した委員の投票により順位を決し、得票数が同数のときは、座長の決するところによる。

## (1) 第一次審査

## ア 審査の通則

選考は、提案団体から提出された応募書類(以下「応募書類」という。)のうち、氏名、住所、年齢その他個人及び提案団体を特定する事項を秘匿した上で、応募書類について審査する。

## イ 審査基準及び方法

審査は、応募書類について審査委員が別表に掲げる審査基準(以下「審査基準」という。)により5点満点で評価する。

## ウ 第二次審査対象事業の選定

応募書類について各審査委員が評価した点数を集計し、合計点数が満点合計の5割以上の事業であり、上位10団体を目安に第二次審査を実施する提案事業として選定する。

ただし、5割未満の事業であっても、審査委員の過半数が推薦する事業については、第二次審査対象事業とすることができる。

## エ 選定結果の通知

推進会議は、前項の規定による選定の結果について、提案団体に通知するものとする。

## (2) 第二次審査

## ア 審査の通則

第一次審査により選定された提案事業について審査する。

## イ 審査方法

市民協働推進会議において行う応募書類に基づく提案団体からの公開プレゼンテーション及びこれに伴う質疑応答によって行う。

#### ウ プレゼンテーションを行う者

(ア) プレゼンテーションを行う者は、書類選定事業の提案団体の代表者又はその関係者とする。

(イ) 書類選定事業が複数の団体により共同して提案されたものであるときは、当該提案団体間で、前号によるプレゼンテーションを行う者を調整するものとする。

#### エ プレゼンテーションの内容

プレゼンテーションは、実施要綱第5条第1項各号に掲げる書類の内容に関する説明を行うものとし、第一次審査選定事業と関連性のないもの及び他の事業などに対する賛否を表明することはできない。

#### オ プレゼンテーションの方法等

(ア) プレゼンテーションは、事業ごとに行うものとする。

(イ) プレゼンテーションごとに当該説明に対する審査委員の質疑を行うものとする。

(ウ) プレゼンテーションの順序は、原則として実施要綱第5条第1項の規定による提案の受付順とする。

(エ) プレゼンテーションの時間は、一事業当たり20分以内とする。

(オ) プレゼンテーションの開催時には、実施要綱第5条第1項第1号から第4号までの事業提案に係る書類及びプレゼンテーションを行う者が用意した資料を、傍聴のための来場者に配布する。

#### カ 審査基準

審査は、別表に掲げる審査基準により、審査委員が5点満点で評価する。

#### キ 採択すべき事業

前項審査基準により、各審査委員が評価した点数を集計し、各審査委員の合計点数が満点合計の6割以上の事業とする。ただし、6割未満の事業であっても、審査委員の過半数が推薦する事業については、採択すべき事業とすることができる。

#### ク 審査結果

(ア) 審査結果には、採択又は不採択についての理由を付するものとする。

(イ) 採択に当たっての条件を付することができるものとする。

(ウ) 審査結果の公表に当たっては、採択順位を付するものとする。

#### ケ 審査結果の通知

推進会議は、前項の規定による審査の結果について、提案団体に通知するものとする。

### 5 委任

前各項に定めるもののほか、武蔵村山市協働事業提案制度に基づく提案事業の審査について必要な事項は、推進会議の座長が推進会議に諮って定める。

### 6 その他

武蔵村山市協働事業提案制度の提案事業の書類選考要領（平成25年9月12日市民協働推進会議決定は、廃止する。

(別表)

「◎」は協働型事業及び団体育成型事業の共通の審査基準とし、「◆」は協働型事業のみの審査基準とします。

審査項目		審査基準	配点基準	
協働の必要性	地域課題・社会的課題	<b>【必要性】</b> ◎ 提案内容は、地域課題、社会的課題等の市民ニーズを捉えているか。	十分に捉えている	5点
			おおむね捉えている	4点
			普通である	3点
			あまり捉えていない	2点
			全く捉えていない	1点
	課題解決の手法・形態	<b>【協働の手法・形態】</b> ◎ 課題解決の手法は、妥当性、先駆性、独創性等があるか。 ◆ 課題解決のために協働という手法が必要とされているか。 ◎ 課題解決に向け、地域等との必要な連携が図られているか。	十分に備えている	5点
			おおむね備えている	4点
			普通である	3点
			あまり備えていない	2点
			全く備えていない	1点
	役割分担等	<b>【役割分担等の妥当性】</b> ◆ 提案団体と市との役割分担が明確かつ妥当なものであるか。 ◎ 行政のノウハウの活用など、多様な役割が引き出されているか。	十分に妥当性がある	5点
			おおむね妥当性がある	4点
			普通である	3点
			あまり妥当性はない	2点
			全く妥当性はない	1点
	事業効果	<b>【相乗効果】</b> ◆ 提案団体と市が協働することにより事業をより効果的（お互いを補完したり、お互いの特性を発揮したりすることにより、効果的な実施が可能となることなど）に行うことが期待できるか。	十分に期待できる	5点
			おおむね期待できる	4点
			普通である	3点
			あまり期待できない	2点
			全く期待できない	1点
		<b>【市民満足度】</b> ◎ 市民の満足度が高まり、具体的な効果・成果（質の高い又は多様なサービス等を受けることができることなど）が期待できるか。	十分に期待できる	5点
			おおむね期待できる	4点
			普通である	3点
			あまり期待できない	2点
			全く期待できない	1点
	企画力	<b>【団体の企画力】</b> ◎ 地域課題を効果的・効率的に解決する事業企画となっているか。	十分に感じられる	5点
			おおむね感じられる	4点
			普通である	3点
			あまり感じられない	2点
			全く感じられない	1点

事業の実現性	実現性	<b>【計画の実現性】</b> ◎ 計画どおりに実施が可能であるか。 ◎ 地域住民等の理解を得られているか。 ◎ 法的な問題等により実現が困難となっていないか。	十分に実現性がある 5点 おおむね実現性がある 4点 普通である 3点 あまり実現性はない 2点 全く実現性はない 1点
	実施能力	<b>【団体の実施能力】</b> ◎ 提案団体は、当該事業を実施する上での専門的な知識や経験を有し、提案する事業が実施可能であるか。	十分に感じられる 5点 おおむね感じられる 4点 普通である 3点 あまり感じられない 2点 全く感じられない 1点
	継続能力	<b>【団体の継続能力】</b> ◎ 提案した事業を継続するために、組織の成長・自立を考えた中・長期的なスケジュールとなっているか。 ◎ 計画を継続して実現するために自ら資金や人材の確保に努めているか。	十分に感じられる 5点 おおむね感じられる 4点 普通である 3点 あまり感じられない 2点 全く感じられない 1点

## ○武蔵村山市協働事業提案制度実施要綱

平成 23 年 8 月 3 日 訓令(乙)第 119 号  
改正 平成 24 年 3 月 27 日 訓令(乙)第 21 号  
改正 平成 25 年 3 月 15 日 訓令(乙)第 7 号  
改正 平成 25 年 6 月 14 日 訓令(乙)第 107 号  
改正 平成 26 年 3 月 3 日 訓令(乙)第 8 号

(目的)

**第 1 条** この要綱は、市民活動団体から提案のあった協働事業の実施に関し必要な手続等を定めることにより、市政への市民参加を促進するとともに、市民による地域の課題、社会的課題等の解決につなげ、もって暮らしやすい地域社会の形成に資することを目的とする。

(定義)

**第 2 条** この要綱において「市民活動団体」とは、特定非営利活動法人、ボランティア団体、自治会その他の自主的に社会貢献活動（当該活動により得た利益の分配を目的としないものに限る。）を行う団体であって、次に掲げる要件のいずれにも該当するものとする。

- (1) 武蔵村山市内を主な活動範囲としていること。
- (2) 運営及び会計処理（予算及び決算を含む。）が引き続き 1 年以上適切に行われていること。
- (3) 定款、規約、会則等を有し、かつ、会員名簿を備えていること。
- (4) 5 人以上の者で組織されていること。
- (5) 次のいずれにも該当しない団体であること。
  - ア 宗教の教義を広め、儀式行事を行い、及び信者を教化育成することを主たる目的とするもの
  - イ 政治上の主義を推進し、支持し、又はこれに反対することを主たる目的とするもの
  - ウ 特定の公職（公職選挙法（昭和25年法律第100号）第3条に規定する公職をいう。以下同じ。）の候補者（当該候補者になろうとする者を含む。）若しくは公職にある者又は政党を推薦し、支持し、又はこれに反対することを主たる目的とするもの
  - エ 暴力団（暴力団員による不当な行為の防止等に関する法律（平成3年法律第77号）第2条第2号に規定する暴力団をいう。以下この号において同じ。）
  - オ 暴力団又はその構成員（暴力団の構成団体の構成員を含む。以下同じ。）若しくは暴力団の構成員でなくなった日から5年を経過しない者の統制の下にあるもの

カ 無差別大量殺人行為を行った団体の規制に関する法律（平成11年法律第147号）第5条及び第8条に規定する処分を受けているもの又はその構成員の統制の下にあるもの

- 2 この要綱において「協働事業」とは、協働型事業及び団体育成型事業であって、この要綱に定めるところにより武蔵村山市（以下「市」という。）から補助金の交付を受けて行うものをいう。
- 3 この要綱において「協働型事業」とは、市民活動団体がその専門性、柔軟性等をいかして実施する公益性の高い事業であって、当該事業の目的を市と共有するとともに、市との役割分担、経費負担等について、企画立案、事業の実施及び事業終了後の評価まで一貫して市と連携を図るものをいう。
- 4 この要綱において「団体育成型事業」とは、協働型事業の実施を目指す市民活動団体の企画力及び事業遂行能力の向上に資する公益性の高い事業であって、市民活動団体が単独で企画し、及び実施するものをいう。

（協働事業の提案）

**第3条** 市民活動団体は、市長に対して、協働事業の実施について提案することができる。ただし、一の年度（4月1日から翌年の3月31日までをいう。以下同じ。）において二以上の協働事業を実施することとなる提案をすることはできない。

- 2 協働事業の実施についての提案は、市長が行う公募に応じて行わなければならない。
- 3 協働事業としてその実施について提案することができる事業は、第1号から第3号まで（当該事業が単年度で完結する事業であるときは、第1号から第4号まで）のいずれにも該当する事業であって、かつ、第5号から第8号までのいずれかに該当するものとする。この場合において、当該協働事業が複数の年度にわたり実施するものであるときは、前項の公募の対象となる年度に係るものとして提案しなければならない。

- (1) 地域の課題又は社会的課題の解決につながる事業
- (2) 市民のニーズに柔軟に対応し、具体的な成果が期待できる事業
- (3) 人員計画、実施予定及び予算の積算が適正である事業
- (4) 継続して複数回実施することが見込める事業
- (5) 市民の地域活動への参画が促進される事業
- (6) 市と協働して実施することにより、市及び市民活動団体双方の事業の推進に相乗効果が期待できる事業
- (7) 市民活動団体の基盤強化や人材育成につながる事業
- (8) 協働の目的意識や役割分担等が明確で協働のまちづくりにつながる事業

- 4 前項の規定にかかわらず、次の各号のいずれかに該当する事業は、同項の規定による提案の対

象としない。

- (1) 現に協働事業として三の年度にわたって実施された事業と同一と認められる事業（同一の市民活動団体が実施したものに限る。）
- (2) 営利のみを目的とした事業
- (3) 特定の個人や市民活動団体のみが利益を受ける事業
- (4) 学術的な研究のみを目的とした事業
- (5) 調査のみを目的とした事業
- (6) 武蔵村山市内の特定の地域住民だけによる事業
- (7) 交流又は親睦のみを目的とした事業
- (8) 宗教活動又は政治活動を目的とした事業
- (9) 公の秩序又は善良の風俗に反する事業  
(事業の公募)

**第4条** 市長は、協働事業の実施についての提案を募集しようとするときは、あらかじめ、公募の期間、選考審査の基準その他公募に必要な事項を規定した募集要項（以下単に「募集要項」という。）を定め、これを公表しなければならない。

（提案の手続）

**第5条** 協働事業の実施についての提案は、募集要項に定める期日までに、次に掲げる書類を市長に提出してしなければならない。

- (1) 協働事業提案制度提案書（第1号様式）
- (2) 協働事業提案制度企画書（第2号様式）
- (3) 協働事業提案制度収支予算書（第3号様式）
- (4) 提案団体概要書（第4号様式）
- (5) 前各号に掲げるもののほか、募集要項に定める書類

2 前項の規定により提案をしようとする協働事業が協働型事業であるときは、当該提案をしようとする市民活動団体は、当該協働型事業を実施する上での課題等について、募集要項に定める期日までに、当該協働型事業についての市の担当課（以下「担当課」という。）に事前調整を申し出なければならない。

3 担当課は、前項の規定による申出があったときは、遅滞なくこれに応ずるものとし、市民活動団体及び担当課は、当該事前調整において、対等な立場で協議し、協働事業を実施する上での課題等の解決を図るよう努めるとともに、生活環境部協働推進課長にその経過を報告するものとする。

4 生活環境部協働推進課長は、前項の規定による協議の進行について必要な支援を行うものとする。

(採択の決定)

**第6条** 市長は、前条の規定による提案があったときは、第15条第1項の規定により置く武蔵村山市市民協働推進会議（同項を除き、以下「推進会議」という。）の意見を聴いた上で、当該提案に係る協働事業を採択するかどうかを決定するものとする。

2 推進会議は、前項の規定による求めがあったときは、前条第1項の規定により提出された書類の審査及び次項の規定による説明の聴取の結果を踏まえ、当該提案に係る協働事業の採択の適否について、市長に報告するものとする。

3 推進会議は、前条の規定による提案をした団体（以下「提案団体」という。）の代表者、その関係者又は担当課の職員を会議に出席させて、説明を聴取することができる。この場合において、当該説明の聴取及びこれに伴う質疑は、原則として公開するものとする。

(決定の通知)

**第7条** 市長は、前条第1項の規定による決定をしたときは、協働事業採択（不採択）通知書（第5号様式）により、提案団体に通知するものとする。

(決定の取消し)

**第8条** 市長は、提案団体が次の各号のいずれかに該当すると認めるときは、第6条第1項の規定による採択の決定の全部又は一部を取り消すことができる。

(1) 偽りその他不正の手段により決定を受けたとき。

(2) 市民活動団体に該当しなくなったとき。

(3) その他協働事業を実施する団体（以下「実施団体」という。）として市長が適当でないと認めたとき。

(事業の実施時期)

**第9条** 実施団体は、第6条の規定により採択することに決定された協働事業の実施に関し市において新たに予算措置を講ずる必要がある場合においては、市が必要な予算措置を講じた後でなければ、当該協働事業を実施してはならない。

(予算措置)

**第10条** 協働事業の実施に関し必要な予算は、当該協働事業が協働型事業であるときは当該協働事業の担当課が、当該協働事業が団体育成型事業であるときは生活環境部協働推進課が、それぞれ計上するものとする。

(補助金の交付)

**第11条** 市長は、別に定めるところにより、実施団体に対し、当該協働事業の実施に関する経費の補助として、次の各号に掲げる協働事業の区分に応じ、当該各号に定める額を限度として、補助金を交付するものとする。

- (1) 協働型事業 800,000円
  - (2) 団体育成型事業 250,000円
- (事業報告)

**第12条** 実施団体は、当該年度における協働事業の実施が終了したときは、遅滞なく、次に掲げる書類を市長に提出しなければならない。

- (1) 協働事業提案制度事業結果報告書（第6号様式）
- (2) 協働事業自己評価書（第7号様式）
- (3) 協働事業提案制度収支決算書（第8号様式）
- (4) 前3号に掲げるもののほか、市長が必要と認める書類

2 市長は、前項の規定による報告があったときは、推進会議に事業報告会の開催を求めるものとする。

3 推進会議は、前項の規定による求めがあったときは、公開による事業報告会を開催しなければならない。

4 推進会議は、前項の事業報告会を開催する場合において必要があるときは、実施団体の代表者、その関係者又は担当課の職員を会議に出席させて説明を求めることができる。

(事業の評価)

**第13条** 市長は、前条の規定による報告及び事業報告会が終了したときは、当該報告及び事業報告会における参加者の意見を踏まえ、当該報告に係る協働事業の評価を行うものとする。

2 市長は、前項の評価を行うに当たっては、あらかじめ推進会議の意見を聴くものとする。

3 推進会議は、前項の規定による求めがあった場合において必要があるときは、実施団体の代表者、その関係者又は担当課の職員を会議に出席させて、説明を求めることができる。

4 市長は、第1項の規定により評価を行ったときは、協働事業評価書（第9号様式）を実施団体に交付するものとする。

(公表)

**第14条** 市長は、毎年度、前年度に実施された実施事業の内容及び実施状況、前条の規定による評価の結果等を公表するものとする。

(推進会議の設置)

**第15条** 第6条第1項、第12条第2項及び第13条第2項の規定による求めに応じて協議する機関と

して、武蔵村山市市民協働推進会議を置く。

- 2 前項に規定するもののほか、推進会議は、市長の求めに応じ市民協働の推進に関し必要な事項を協議して、その結果を市長に報告するものとする。
- 3 この要綱に定めるもののほか、推進会議の組織及び運営に関し必要な事項は、市長が別に定める。

(委任)

**第16条** この要綱に定めるもののほか必要な事項は、市長が別に定める。

#### 附 則

(武蔵村山市市民協働推進会議設置要綱の廃止)

武蔵村山市市民協働推進会議設置要綱（平成21年武蔵村山市訓令（乙）第91号）は、廃止する。

附 則（平成24年3月27日訓令（乙）第21号）

この要綱は、平成24年4月1日から施行する。

附 則（平成25年3月15日訓令（乙）第7号）

この要綱は、平成25年3月15日から施行する。

附 則（平成25年6月14日訓令（乙）第107号）

この要綱は、平成25年6月14日から施行する。

附 則（平成26年3月3日訓令（乙）第8号）

(施行期日)

- 1 この要綱は、平成26年3月3日から施行する。

(経過措置)

- 2 この要綱による改正後の武蔵村山市協働事業提案制度実施要綱第11条の規定は、平成26年4月1日以後に採択の決定を行った協働事業について適用する。

様式 一略一

## 平成25年度武蔵村山市協働事業提案制度実施事業報告会実施要領

## 1 開催目的

協働事業の成果をこれからの協働に生かし協働の質を高めるとともに、協働事業の信頼性・透明性の向上を図ることを目的に開催する。

## 2 開催日時

平成26年4月17日（木）午後6時から

平成26年4月24日（木）午後6時から

## 3 主 催 武蔵村山市市民協働推進会議（以下「推進会議」という。）

## 4 出席者 実施団体、協働所管課、推進会議委員及び一般参加者

## 5 事務局 生活環境部協働推進課

## 6 実施方法

- (1) 実施団体及び所管課（協働型事業の場合に限る）は、武蔵村山市協働事業提案制度実施事業自己評価票（達成度別の5段階評価及び評価の理由の記入）に基づき自己評価を行った上、協働推進課に提出し、市が報告会出席者に配布する。
- (2) 実施団体及び協働所管課は、武蔵村山市協働事業提案制度実施事業自己評価票に基づき、事業報告を行う。
- (3) 報告会出席者との質疑応答を行い、推進会議は、適宜助言を行う。
- (4) 実施団体、所管課及び一般参加者の退席後、推進会議で事業評価を行う。

## 7 評価項目

## (1) 事業目的

事業の目的はどこまで達成できたか。

## (2) 事業内容

事業スケジュールに問題はなかったか。

課題に対する事業の効果はどうだったか。

設定した事業の効果は得られたか。

組織内部で事業を検証し、改善点等を話し合ったか。

継続の可能性は高まったか。

効率的なコストで事業運営はできたか。

## (3) 協働という事業形態

事業の実施方法や手法はどうだったか。

協働事業の役割分担はどうだったか。

事業の実施体制はどうだったか。

協働事業としての意義と必要性はどうか。

単独で実施するより効率的・効果的に実施できたか。

市民活動団体等の持つ特性を発揮できたか。

事業に最もふさわしい協働形態が選択されたか。

協働相手は妥当だったか。

事前の話合いを十分に行い、役割は明確になっていたか。

事業の進捗状況などについて情報交換など意思疎通は十分だったか。

課題の発生に双方の立場から適切に対応したか。

今後の課題と改善策を互いに話し合ったか。

(4) 市民ニーズの充足

市民のニーズは適切に把握できていたか。

市民のニーズに応えられたか。

(5) 実施能力

事業を実施して、団体の実施能力は向上したか。

(6) その他

事業実施を通して学んだことは何か。

新たに気付いた課題は何か。



平成25年度  
武蔵村山市協働事業提案制度  
実施事業評価報告書

平成26年6月

武蔵村山市